

05. 考察される最適な手法

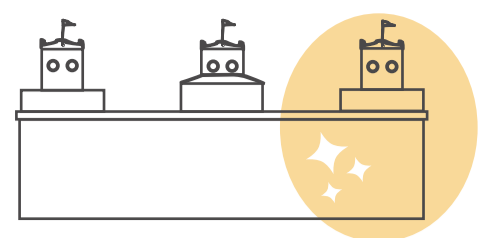
導き出された三つの事項

- ①全体に及ぶ変更は避ける
- ②本来と同一性状の才良おうによる手法と新素材使用のバランス
- ③伝統的な修復方法を優先的に検討

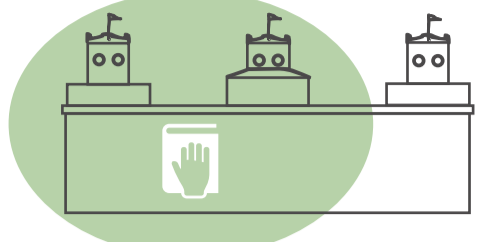


価値ある建築物を、新しい時代に適した形で積極的に活用する手法・制度  
リノベーションよりも文化性が高く、  
オリジナル性を保存継承するための技術として存在する。

一部復元

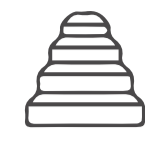
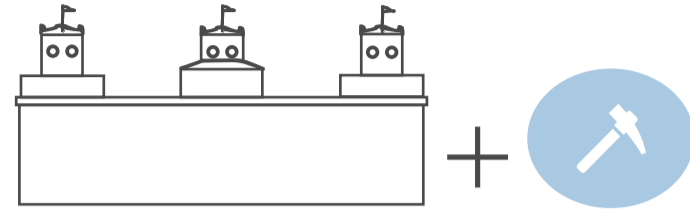


部分保存

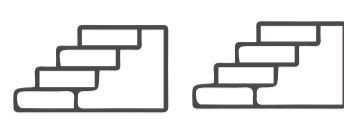


インテグレーション

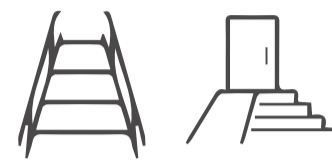
元の構造物を残し、それを新たな建物に統合すること



一棟分を復元改修  
当時の食堂空間・家具を残し  
機能の再配置と歴史の伝承を行う



二棟分を保存活用  
建設以来から蓄積される価値を  
資産として残す

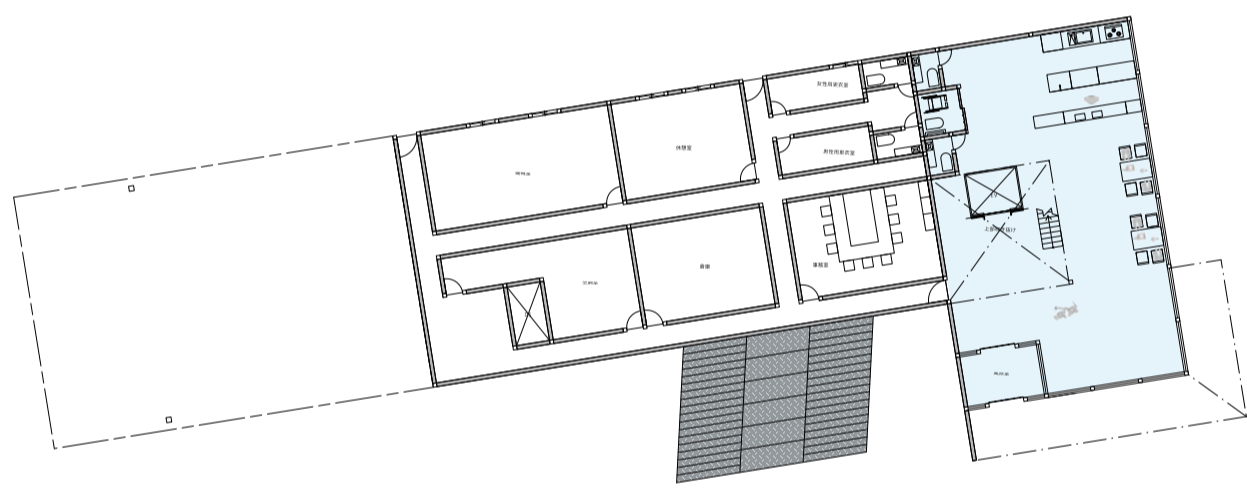
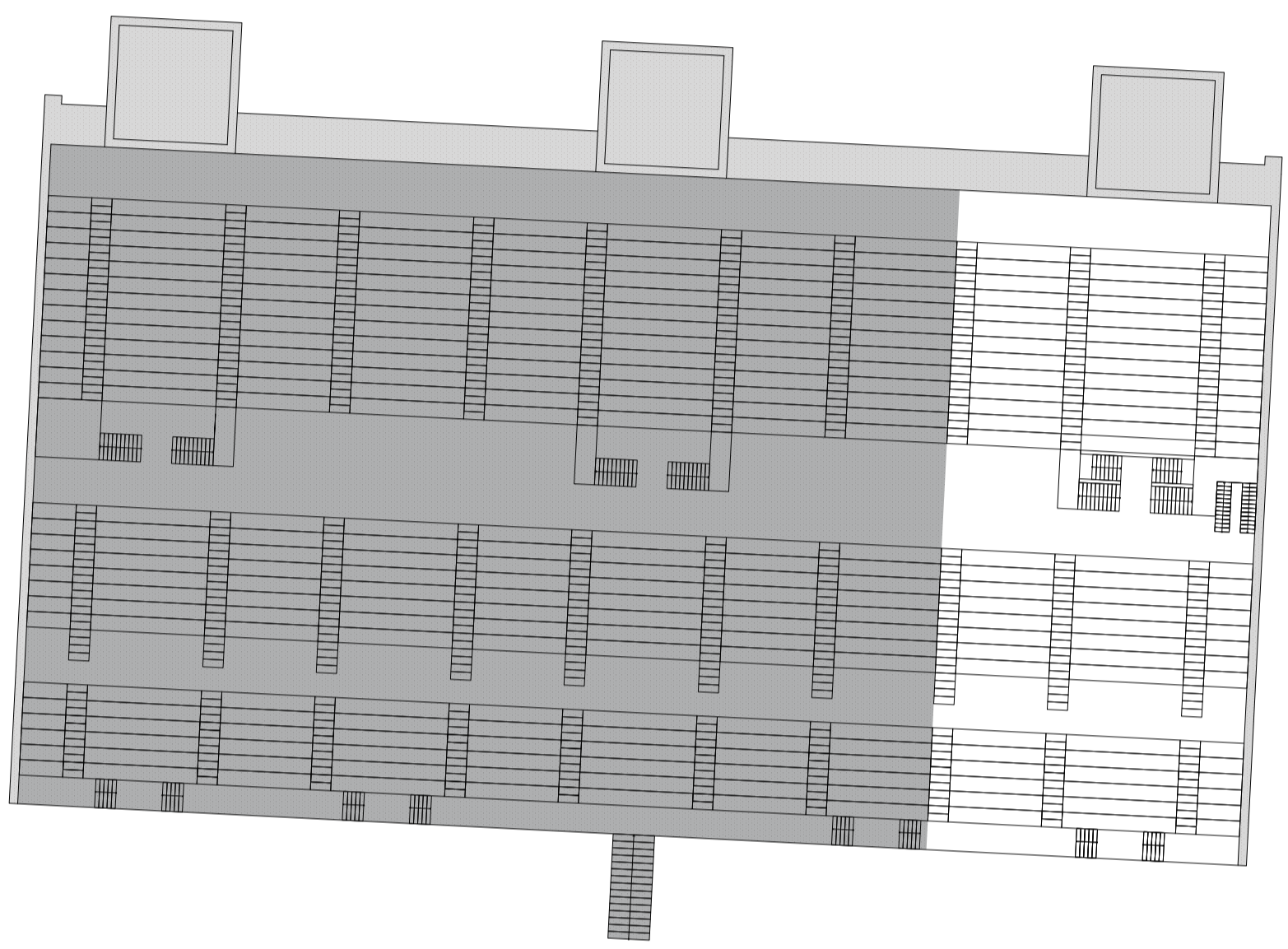


新たな施設を計画  
競馬場とブリッジでつながり  
観賞と移動を可能とする



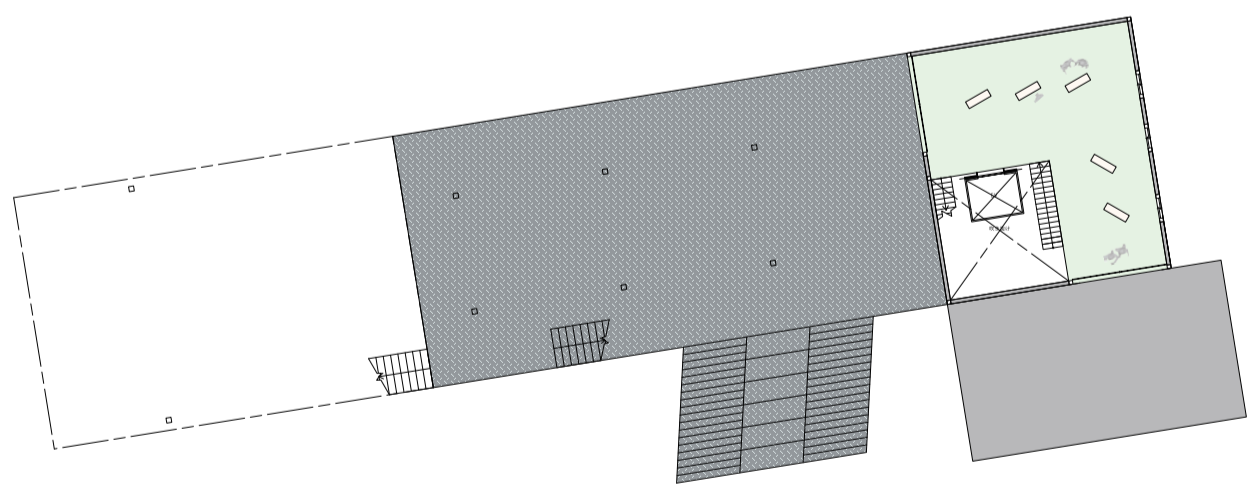
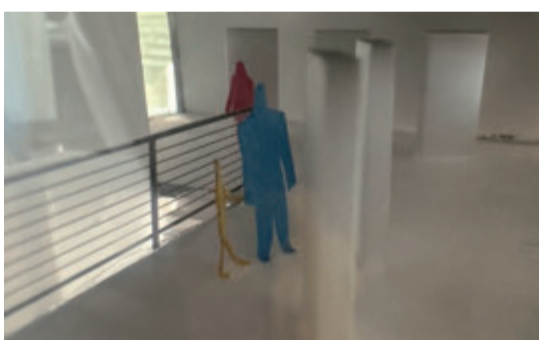
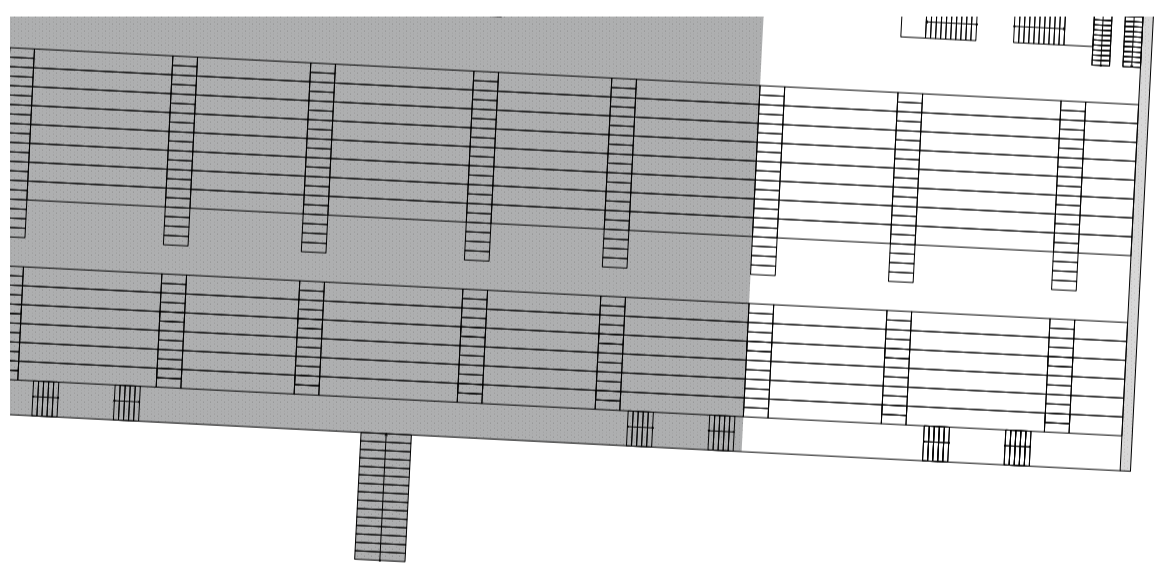
商業施設 平面図 1/300

1F



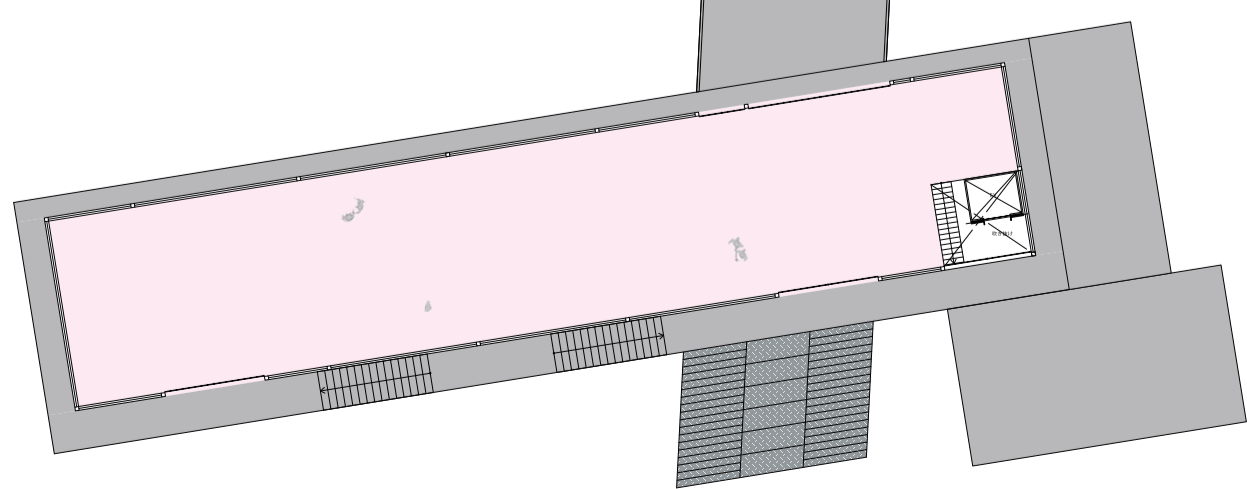
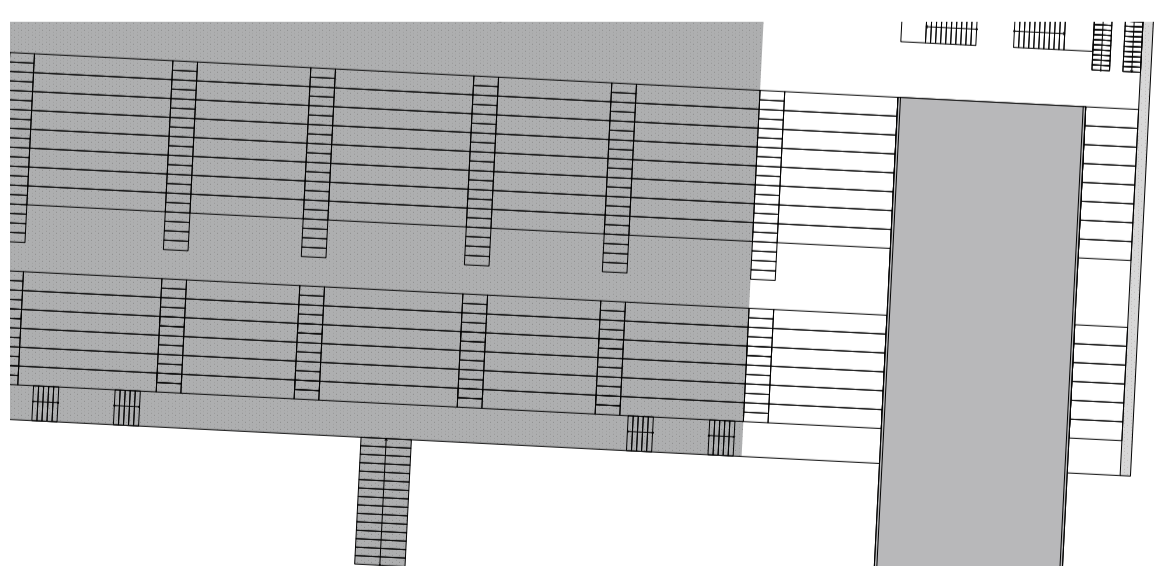
主な目的：カフェ、競馬場見学案内

2F



主な目的：歴史展示、テラス空間

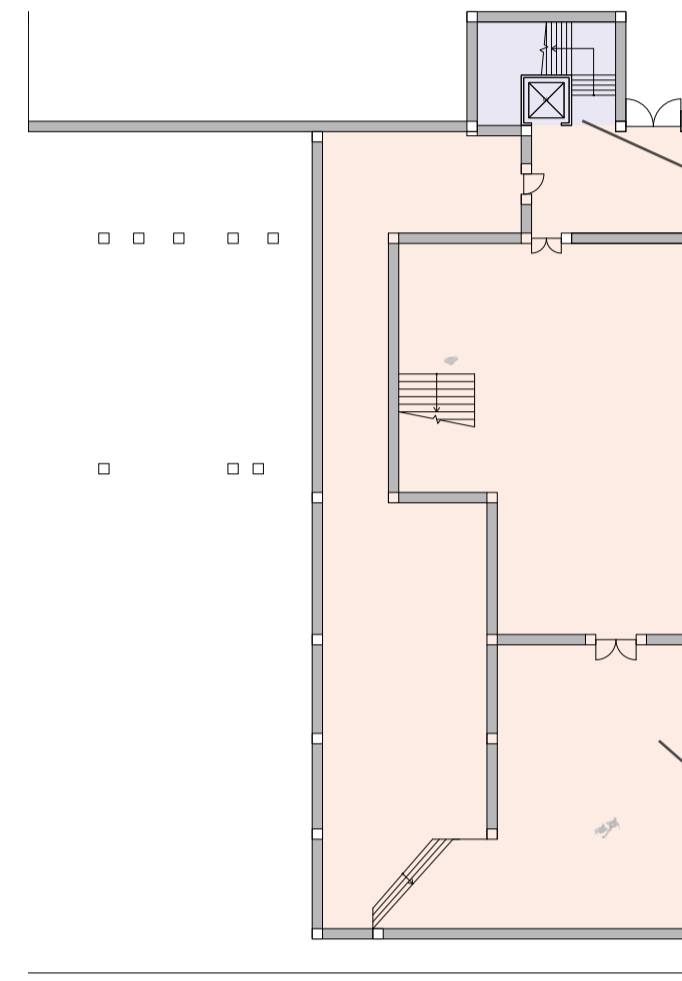
3F



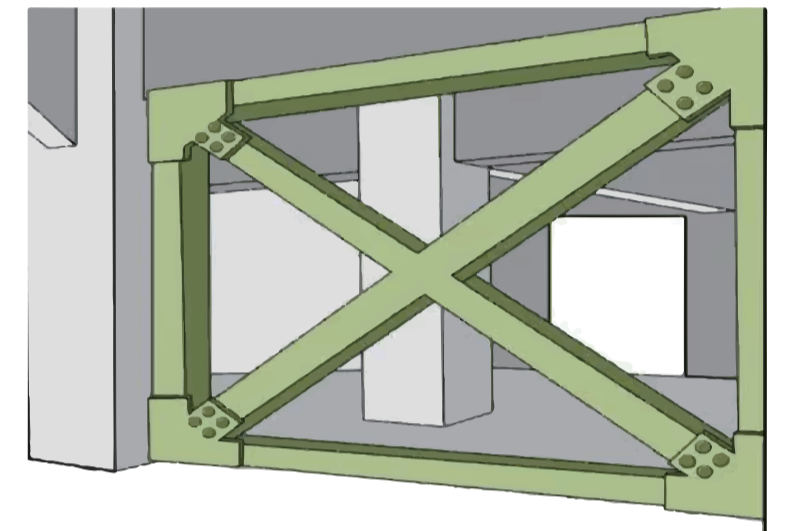
主な目的：競馬場観賞、競馬場・施設間の移動

根岸競馬場 アダプティブユース 平面図 1/300

1F

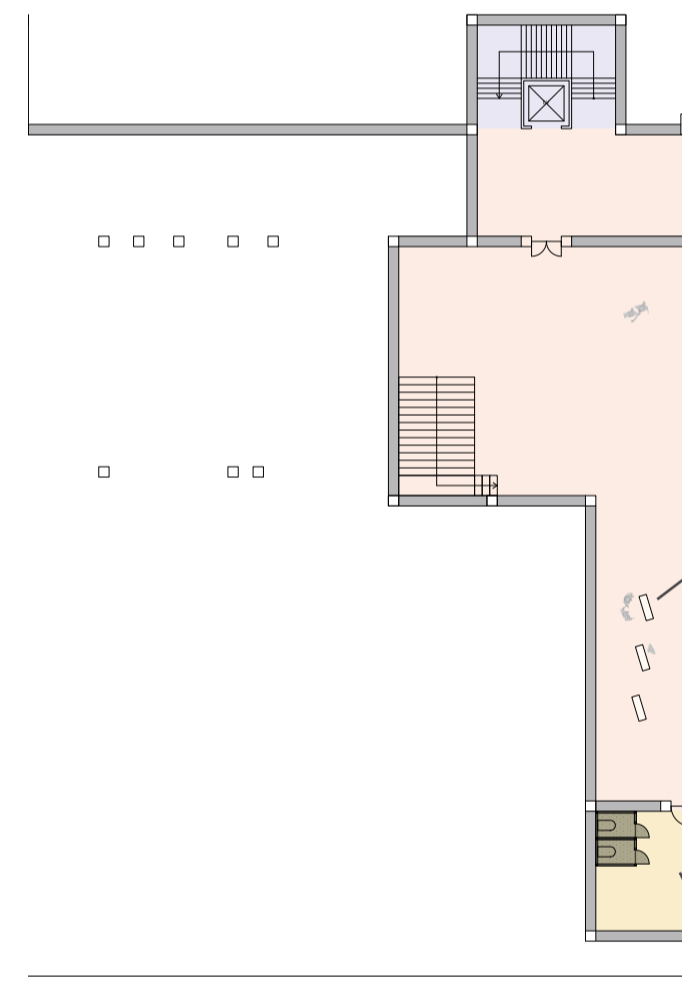


階段・エレベーター等の建築設備を更新する  
(その他：耐震壁、ブレース構造の導入等)  
再生された建物には、建物が今後も保つよう  
再生に見合った設備を取り付ける工程が必要



当時の部屋をそのまま復元  
どのように使われていたのか歴史を探る

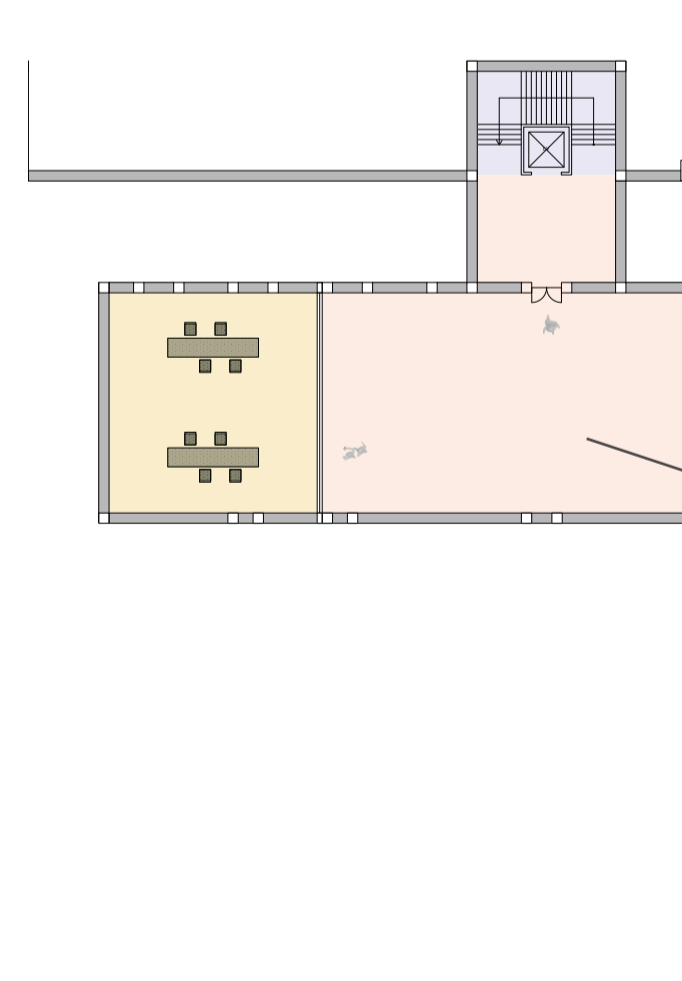
2F



根岸競馬場の歴史、モーガンの意匠についてを  
展示パネルで学ぶ

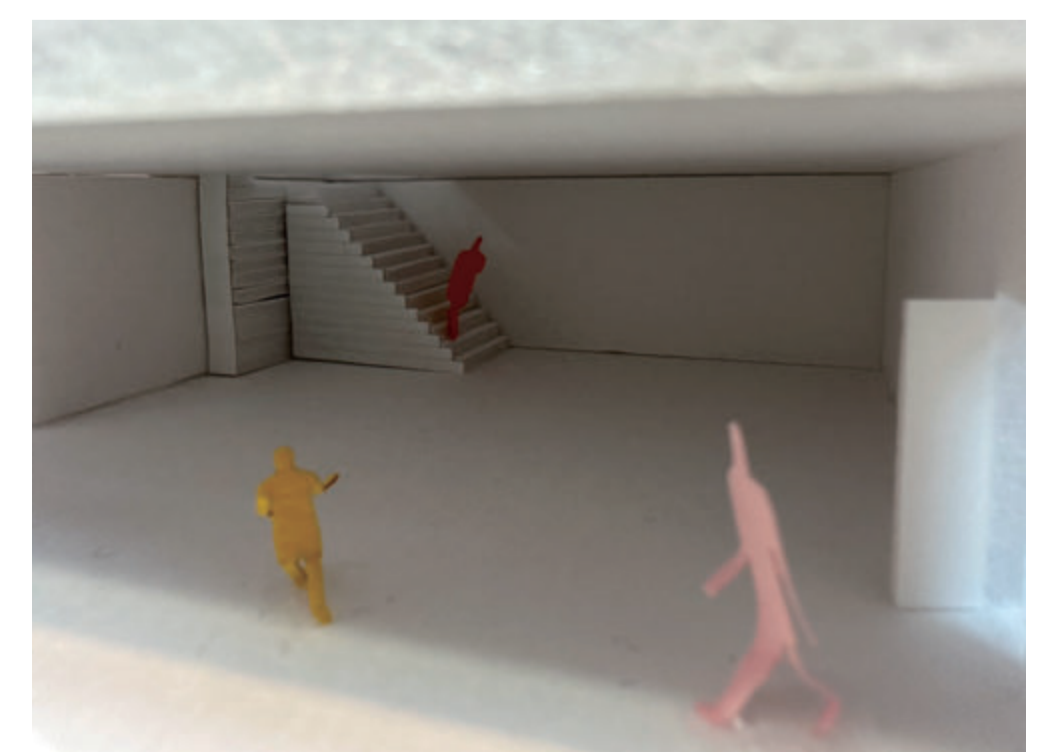
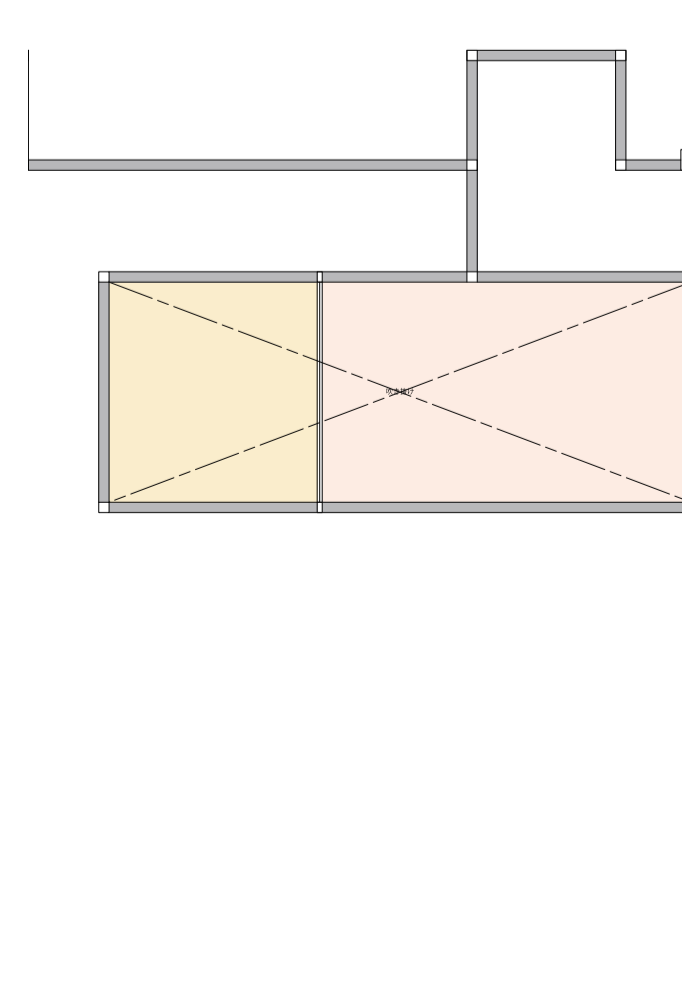


3F



当時使われていた、トイレ・食堂空間をそのまま残す  
保存活用はその建物の価値を再確認するきっかけとなる

4F



- ... 建築 / 文化 / 設備更新
- ... 一部復元
- ... 部分保存